髙木凜々子（ヴァイオリン）　フィリアホール　リサイタルに向けて
～エックレスのソナタ、リサイタルで弾くの初めてなんです！～

聞き手&文章：　奥田佳道（音楽評論家）

この人、すべてがクリエイティヴだ。一期一会のステージに向けて、すべての行いがプロフェッショナルと言い換えてもいい。

楽の音と自在に戯れる才媛は、ここへきてさらなる高みを目指す。

「今年の 5 月頃から、私、変わったのです。鶏の胸肉をたくさん頂くなど、ダイエットもしました（笑）。6 キロぐらい痩せて、筋肉もほら、こんなに。テクニックを見直すことも出来ました。考えて身体を引き締めたことで、好きでよく弾いてきた曲はさらに好きになり、最近好きになった曲は、これからもどんどん弾きたいな、と思うようになりました。たくさんチャレンジしたいなって。ええ、音楽の景色が変わって見えるようになったのです!」

今をときめく髙木凜々子さんとの話はいつも楽しい。SNS で見聞きする機会も多い。

「私、SNS 好きです。意識して活用しています。

コンサートの宣伝だけではなく、全国のたくさんの方にヴァイオリニスト髙木凜々子を知って欲しいので、SNS を使い分けています。

YouTube は、私のヴァイオリンを聴いていただくために定期的にアップ、Instagram ではお洒落も楽しんでいます。Twitter ではコンサートや今日のようなインタヴュー、番組出演などの告知が中心になりますが、沢山の方がすぐに“楽しみにしています”とリプライを下さるので嬉しいですね」。

そしてもうひとつ。

「前から、曲や音楽への考えを言葉にする努力を続けてきましたが、今年 7 月から Voicy（音声プラットホーム）でトークを行なっています。言葉、とても大事です。音の表現が深まります。

SNS に積極的なのは、私に興味をもって、コンサートに来て頂きたいからです。そこははっきりしています。

配信を見て、この人の生演奏を聴いてみたい。そういう流れになるように、今出来ることを積極的にやります」。

8 月 28 日土曜午後 6 時半、横浜青葉台のフィリアホールでのリサイタルでは、ヴァイオリ

ン学習者が弾く**エックレスのソナタ　ト短調**、ベートーヴェン若き日の肖像とも言うべき**ソナタ第 2 番イ長調 Op. 12-2**、凜々子さん曰く「小品ではなくひとつの大きな作品に感じる」**イザイの無伴奏ソナタ第 3 番「バラード」**、それに今年没後 100 年の**サン＝サーンスの**劇的流麗な**ソナタ第 1 番ニ短調 Op. 75** を弾く。
ピアノは五十嵐薫子さん。
「五十嵐薫子さんとは何と初共演です。京都でのロームミュージックファンデーションのスカラシップコンサートでお目にかかっていますし、お話もしているのですが、ご一緒するのは初めて。素晴らしいピアニストですので楽しみですね」
初めてと言えば、バロック後期の名作**エックレスのソナタ**も。
「もちろんよく知っている曲ですが、人前では初めて弾きます。だから新鮮ですよ。私のファンの中には、ヴァイオリンを習っていた方や今も演奏している方がいらっしゃるのですが、そうした皆さんへのプレゼントになれば嬉しいな」

ベートーヴェンはまさにピアノとヴァイオリンのためのソナタ。
イザイは腕に覚えのあるヴァイオリニスト必携のレパートリー。そして躍動感と叙情美をあわせもつ**サン＝サーンス**は、もっと演奏されていいフランスの逸品である。
「ベートーヴェン、大好きです。先生も（と聞き手に向かって）私にあっている曲とおっしゃってくださいましたが、五十嵐薫子さんのピアノとともに新しい地平に立ち、音楽を奏でてみたい気持ちです。
モーツァルトとかベートーヴェンについては（ヴァイオリニストの）両親、とくに父が厳しいので、しっかりやらないと笑　両親のサポートにもほんとうに感謝しています。
イザイはテクニックの曲ではなく、まさにソナタだと思います。難しい曲ですが、それをひけらかさないで、空間的な響きやスケール感を表現したいですね。
サン＝サーンスは、ドビュッシーやラヴェルの色彩とはまた違う世界。音楽に独特の層、厚みがありますよね。深いです。
きらびやかで細かな動きの音もたくさん。それを勢いに任せて弾かないようにしないと。サン＝サーンスのソナタは、フランクのソナタのように有名ではありませんが、今の私を聴いていただくのに、いちばんいい曲のような気がします。
でもごめんなさい笑　これ以上はちょっと…。今、このソナタについて考えを巡らせているところです。あそこをどう弾くではなく、どう解釈するか――すでに自分なりにイメージはまとまっているのですが、まだ納得していない自分もいます。これからの日々で変わるかも知れません。
さきほど、音楽を言葉にすることの大切さを話しましたが、サン＝サーンスのソナタについては、8 月 28 日のステージで答えを出します（笑）　皆さまいらして下さい！」。
フィリアホールでのリサイタル後には、下野竜也指揮名古屋フィルとのパガニーニも控える。創造の喜びを共演者、ファンと分かち合うステージが続く。

「協奏曲もどんどん弾きたい。サン＝サーンスなら第 3 番、ラロのスペイン交響曲も好きです。

リサイタルではモーツァルト、ベートーヴェンなどの古典派、ロマン派だけでなく、ヤナーチェク、シュニトケに興味があります。

ベートーヴェンは最後のソナタ第 10 番への憧れもあります。自分のキャラクターとは違う世界の曲かもしれませんが、チャレンジしてみたいです。その前にフィリアホールで今の私と五十嵐薫子さんによるドラマティックなベートーヴェンそしてサン=サーンスのソナタを聴いて下さいね」。

開演が近い。